

香港と日本における出入境および隔離について

日本香港協会広報委員 ジャーナリスト 武田 信晃

新型コロナウイルスの感染拡大により、状況が全く変わったのが出入境だ。特に香港は重症急性呼吸器症候群(SARS)の経験と中国本土のゼロコロナ政策に影響を受け、一時期は世界で最も厳しい水際対策を実施していた。

◆日本⇒香港

観光客やビジネスパーソンはワクチン接種を終え14日以上経過していることが前提だったが、日本でオミクロン株の感染者が発見されたため、11月30日より永久居民のみ入境できる。航空券はキャセイパシフィック航空、日本航空、全日本空輸のみで、成田国際空港からは大体1日1便、3社のうちどこかが運航し、価格は往復で6~7万円前後。出発72時間以内のPCR検査による陰性証明書が必要で、検査機関はISO15189の認定を受けていなければならない。発行価格は3~5万円で、英語または中国語表記でパスポートの情報と同じである必要がある。

香港国際空港到着後、PCR検査、政府指定のアプリのインストールなどがある。検査が陰性ならシャトルバスに乗り、事前予約した香港政府指定のホテルで入境日を含めた21日間の隔離を行う。価格は2022年2月28日までは1泊490香港ドルから5.5万香港ドルまでピンキリだ。隔離中も検査官が部屋に来てPCR検査、隔離終了後も入境26日目に香港内にあるPCR検査場で検査を受けなければならない。

◆香港⇒日本

出発72時間以内のPCR検査が必要だ。安いところでは500香港ドルからあり、日系のクリニックに行けば

1,000~2,000香港ドルかかる。日本入国後、PCR検査を受け、My SOSという専用アプリ、GPSをオンにする事などがある。荷物受取所から出た後は、公共交通機関使用不可なので、家族・友人に迎えに来てもらうか、ハイヤーやレンタカーで隔離場所に行かなければならない。隔離は入国翌日から14日間となる隔離中は1日3回ほど在宅確認の通知が来る。

香港往復は最短で35日の隔離が必要だ。防疫対策は朝令暮改的にやらないと効果が得られない。この文章は2021年12月15日現在だが、オミクロン株の影響で新規外国人に関しては入国一時停止になるほか、一時期は新規航空券の販売を取りやめることから、チケットを買っていない海外在住日本人が帰国できなくなるなど、何度も検疫措置が変更になっている。読者が渡航するときはずでに変更されている場合も考えられるのでアンテナは常に張っておきたい。



香港国際空港内にあるPCR検査の結果を待つところ

2022年1月発行(禁無断転載)

目次

香港と日本における出入境および隔離について	1
優れたビジネス環境を保ちつつ、明るい未来に向かう香港	2
香港の新たな成長のエンジンを目指す「北部都会区」構想	3
「香港日本人学校OBOG再交流の広場」(オンライン座談会)第5回	4
業界リーダーらが一堂に会す 秋の国際イベントも大盛況!	6
連合会・各協会便り	
全 国:「第22回香港フォーラム」「第10回全国連合会総会」開催報告	7
東 京:第16期CMMS華人経営研究講座はオンラインで開催中です	
広東語&香港家庭料理講座受講生募集	8
関 西:香港にとどまらず、アジア全域に広がるHKBAの「人のつながり」	9
中 京:香港街市雑記帳(1)	10

九 州:香港ブックフェア出展と訪日旅行に係るアンケート結果について	11
山 形:人的ネットワークの構築こそ今後の活動への種	12
北海道:東京2020オリンピック競技大会札幌開催における 札幌市の活動について	13
宮 城:セミナー「宮城仙台と香港を活用したグローバル市場への 展開可能性」を開催/学生部の活動	14
沖 縄:沖縄の「やちむん」の魅力を香港へ	15
広 島:香港市場における広島県の取組み 広島日本香港協会の事業	16
新 潟:コロナ禍での活動	17
高 知:新年好!	18

優れたビジネス環境を保ちつつ、明るい未来に向かう香港

香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部 首席代表代行 胡鉅華（トーマス・ウー）

香港特別行政区政府は、昨年9月27日に「香港のビジネス環境に関する報告書：独自の強みと無限のチャンスを提供する場所」を発表しました。報告書の全文は www.hkeconomy.gov.hk/en/environment でお読みいただけますが、ここではいくつかの重要なポイントをご紹介します。

2020年半ばに香港国家安全維持法（国安法）が施行された後、香港は社会の平和と安定を速やかに取り戻しました。市民生活や経済活動は正常に戻り、ビジネス環境も回復しました。昨年の香港経済は堅調に推移し、上半期は前年同期比7.8%と顕著に回復。第3四半期の経済成長率は同5.4%であったことから、第1四半期から第3四半期までの累計では同7.0%となり、2021年通年の実質GDP成長率予測は6.4%に修正されました。また、一時は7.2%まで上昇した失業率は、7～9月期には4.5%に低下。「一国二制度」の下における香港の制度的強みやその他の固有の優位性は、全く損なわれていません。

香港の良好なビジネス環境と強固な金融システムは、国際機関も認めるどころです。国際通貨基金（IMF）は昨年発表の報告書で、主要な国際金融センターとしての香港の地位と役割を明確に肯定し、香港の回復力ある金融システム、健全なマクロ経済政策と賢明な政策、強固な規制と監督の枠組みを称賛しました。一方、国連貿易開発会議（UNCTAD）の「2021年世界投資報告書」では、有利な税制、シンプルな上場プロセス、資本規制がないことと優れた規制の枠組みにより、香港は今後もアジアにおける重要な金融ハブ、また中国本土への投資の玄関口であり続けるとの見解が示されています。

香港の経済自由度と競争力は、常に世界から高く評価されてきました。フレーザー研究所がまとめた「2021年世界経済自由度報告書」で香港は首位。世界経済フォーラムの「2019年世界競争力レポート」では総合順位3位、「金融システム」ほか複数の評価項目では1位でした。

国安法の施行に際して在香港外国商工会議所の一部が当初抱いた懸念は、香港政府による詳細な説明と実際状況を見ることでほぼ解消されました。米国、英国をはじめ各国の商工会議所が、香港は依然として国際企業にとって理想的なビジネスの場であることに同意しています。香港の確固たる法の支配と司法の独立も、こうした香港への信頼を裏打ちする重要な要素です。

香港は引き続きオープンで多元的な国際都市であり、世界中から人材や、大小さまざまな組織と企業が集まる場所となっています。香港外に親会社があり香港で事業を営む企業数は昨年、9,049社に上りました。この数は過去数年間、ほぼ横ばいですが、2017年比では約1割の増加です。実際、香港には1,388社の日本企業があり、香港に拠点を構える外国企業として国別で最多です。

香港を支援する中央政府のさまざまな政策を活用する

ことで、香港は経済発展の新たなスタートを切ろうとしています。これには「一帯一路」構想のほか、第14次5カ年計画、広東・香港・マカオ大湾区発展計画、前海深港現代型サービス業協力区における改革開放の全面的深化構想が含まれ、国内循環の拡大だけでなく、国内と国際の双循環によって経済発展を促すモデルでの成長を目指していきます。これらの政策は、香港および海外の企業や専門サービスプロバイダーに無限のチャンスをもたらしています。中国本土の巨大市場を開拓するために互いの企業が手を組むことは、日本と香港の双方にとってプラスになるでしょう。

林鄭月娥（キャリー・ラム）行政長官が昨年10月6日に発表した2021年施政方針演説には、中央政府の支援を活用して香港の競争力を強化するためのより具体的な施策が盛り込まれています。第14次5カ年計画で示された“8つの中心”の戦略に基づき、香港は金融、運輸、貿易、航空、イノベーションとテクノロジー、法務・紛争解決、知的財産取引、文化交流の8つの分野で国際的なハブとしての発展を図ります。

この計画から生まれる利益を分かち合おうと、地元以外の人材を誘致して香港の人材プールを充実させる一連の施策も打ち出されました。優秀人材入境計画の年間受け入れ枠を4,000人に倍増するほか、「才能リスト」に新たな職業を追加するなどして、世界中から優れた人材を香港に誘致します。

施政方針演説ではまた、大湾区内における人材の双方向の流れを強化するとともに、在香港外国商工会議所から出ている非中国系香港住民による大湾区の本土都市への移動円滑化要望に積極的に対応すべく、中央政府に具体的な提案をしたことが発表されています。

「一国二制度」の下で香港は本土都市とは異なる経済システムを築いており、高度に国際化されたコスモポリタン都市となっています。今後も中国本土と世界をつなぐ玄関口となるとともに、高付加価値サービスプラットフォームや国際的な人材・資本プールとしての機能を果たし、世界から選ばれるビジネスの場であり続けます。日本の企業や人材が、香港をパートナーとして商機をつかみ、香港の経済成長の成果を共有してくださることを願っています。



「香港のビジネス環境に関する報告書」

香港の新たな成長のエンジンを目指す「北部都会区」構想

日本貿易振興機構（ジェトロ）香港事務所長 高島 大浩

コロナ禍における在香港日系企業の経営環境を取り巻く課題は、次の3点に集約できるだろう。

まず最大の課題は、中国との出入境制限である。約1,400社立地する日系企業の半数は、華南ビジネスに携わる。往来の不自由さは営業や工場管理上の死活問題であり、機能や人材を広東省側にシフトさせざるを得ない状況に追い込まれている。

次は、従業員の雇用に関すること。第4波感染が収束した昨年5月以降は景気の回復により求人が増し、退職者増、採用難、人件費上昇の悪循環に見舞われている。日本語人材に関しても、求職者の求める給与水準が能力に見合わないと嘆く声が聞こえる。この人材難の一因が、従業員の海外移住とされる。移住者の中心層は、ミドルマネージメントクラスの子育て世代に相当し、将来の子供の教育環境を憂慮している。但し、移住問題が香港経済を揺さぶるほどではない。

そして、日本の本社とのパーセプション・ギャップ。要するに、国内報道に起因し本社が香港の将来を悲観し過ぎ、それが現場で新規ビジネスの足枷になっていることだ。ただ申し上げておきたいのは、香港国家安全維持法の施行を含めた社会変容により懸念や不透明感はあるが、これを理由に撤退した日系企業は無い。なぜなら、中国ビジネスにとって欠かせない国際金融や国際物流を司るビジネス環境は一切棄損されていないからだ。

他方、「ウィズコロナ」を否定し「ゼロコロナ」を追求する中国が相手では、香港との出入境に制約が残り続けることを念頭に、日系企業が対中国ビジネスの再構築を迫られているのは確かであろう。

こうした課題を昨年半ばより香港企業経営者にぶつけてきた。異口同音に、「自社も広東や上海に人材を送りこんでいる」、「一旦大陸に切り出した機能を高コストの香港にわざわざ戻すことはない」と言われる。そして必ず付け加えられるのは、「粵港澳大湾区（GBA）域内の機能移転であれば、何ら支障はない筈だ」、「ビジネスの基盤はもはやGBAであり、日系企業も香港の役割のパラダイムシフトが必要ではないか」といった、香港と広東省を一体視する見方だ。

このGBAに対する捉え方は、何も企業経営に限ったことではない。昨年10月6日の林鄭月娥行政長官による施政方針は、香港がGBAの中で一定の役割を果たしながら、発展を目指すことを打ち出している。今回の施政方針は、「第14次5か年計画」に整合させており、その下で従来からの香港の4つの強み（①国際金融、②国際運輸、③国際貿易、④司法・紛争解決）に加え、新たな4つの成長分野（①国際航空ハブ、②イノベーション・技術、③知的財産取引、④東西文化の結節）を示している。

そして目玉は、「北部都会区」構想だ（掲載図参照）。深圳市と接する新界地区北部に3万ヘクタール規模の都

市開発を行い、宅地のみならずITなどの事業用地を開発し、250万人の居住、65万人の雇用を創出するという。香港島・九龍地区の金融・商業地域に並ぶ、新たな成長エンジンとする。この「北部都会区」と深圳市側で表明した「前海における深圳・香港現代サービス業合作区」との鉄道整備も含めて、深圳市との面的な一体化が描かれている。

この新たな構想を「一国二制度の変質の下、経済でも中国が香港を取り込もうとしている」と書き立てるのはたやすい。ただ、日本との間で企業交流に携わる身として、中国市場、そして深圳におけるイノベーション産業の集積との連携を抜きにしては、香港の立地優位性もはや語れない現実を目の当たりにしてきた。香港国際空港が、珠海空港に出資するように、香港が都市として成長を維持するためには、華南の経済力を取り込んだモデルを構築するしかない。また、社会不安の源泉とも言われる貧富の格差の是正、とりわけ住宅問題を解消するには、北部での宅地供給と共に、定住人口増加に向けた新たな産業基盤の確立も欠かせない。粗削り感は否めないが、「北部都会区」構想は、香港が抱える様々な課題を包摂し、一気に解決しようと提案しているのではないだろうか。

さて、この「北部都会区」の実現可能性について香港を代表する不動産開発会社の会長にぶつけてみた。「同じような構想は40年前から耳にするが、陽の目を浴びたことは無い。だが、仮に行政長官が省長のように位置付けられるのであれば、打ち出した構想を実現しないことは許されない」と返ってきた。

メディアが指摘するような香港の中国化が本当であれば、「北部都会区」は必ず実現されなければならない。ただ現実的な見方として、人権、環境といった今まで培われてきた香港の価値を重んじ法治プロセスに則りながら、深圳との面的な融合を推し進め、住宅を中心とした開発が優先的に取り組まれるものと期待をしている。



「北部都会区」構想マップ（出所：香港政府「北部都会区発展戦略報告書」より引用©行政長官弁公室許諾）

「香港日本人学校OBOG再交流の広場」(オンライン座談会) 第5回

ゲスト：岡田美奈子さん、小倉(東)多佳子さん、
 服部洋之さん、日浦(河辺)恵真さん
 司 会：伊東正裕 (NPO法人日本香港協会 広報委員)
 構 成：平野純一 (NPO法人日本香港協会 広報委員)



(上段左より) 小倉さん、日浦さん、岡田さん
 (下段左より) 服部さん、伊東、平野

——今回は、1962～63年生まれで、60年代後半から70年代半ばまで香港日本人学校に通った同級生の座談会です。まずは皆さんの自己紹介からお願いします。

岡田 66年の3歳から72年の小学校4年まで香港にいました。当時は香港日本人学校に幼稚部がなく、英国系の幼稚園に入れられました。日本人は誰もいないし、ABCが書けないと父によく怒られていました。その後、駐在員のお母さん方が協力してロッキン玩具(樂景臺)に日本人幼稚園を開設したので、そこに1年くらい通いました。69年に日本人学校に入学しましたが、校舎と同じタワーコートの上階に住んでいたため、スクールバスで登校する友達がうらやましかったです。

伊東 私も3歳で広東語の幼稚園に入れられ、漢字が書けないって先生に怒られましたよ(笑)。

小倉 私は71年の小学3年から中学1年までいました。大阪の伊丹空港から初めて飛行機に乗って降り立った香港は異国情緒たっぷり、好奇心が湧いてきたことを覚えています。当時は海底トンネルがなくカーフェリーで香港島側に渡り、いったいどこに住むだろうと少し不安になりました。香港から帰国した後は、2年目にパリへ行き、現地校に通いました。いきなりフランス語だから授業についていけず、得意科目は数学だけ。数学はメチャ天才と言われましたが(笑)。その後、ドイツのハンブルクに引っ越しましたが、ドイツ語はできないのでフランス人学校に通い、高校3年までいました。大学は東京で、就職してやっと大阪に戻ってきました。

服部 私は70年の小学2年で鎌倉から香港に行き、5年生まで3年間いました。最初の2年間はロビンソン・ロード、あと1年はマクドネル・ロードに住みました。フラット近くの果物屋がアマさんの行きつけで、何でも

天秤の量り売りする、おもしろい店だったことを覚えています。社会人になり、ジャカルタに98年から7年間赴任しましたが、妻と小学2年の長女、3歳の次女を連れて行き、ジャカルタ日本人学校に通ったので、ちょうど自分が香港にいた時と同じことを子供たちも体験しました。そのころのジャカルタは、雰囲気が我々がいた70年代の香港と同じような感じで、汚さも気にならず、街を歩いても怖いと感じませんでした。

日浦 私は71年の小学3年から中学1年までいました。結婚と同時にアメリカに行き、今はサンフランシスコの郊外に住んでいます。香港では、週末はきれいな海で泳ぎ、いろいろな国のおいしいレストランで食べ、家にはアマさんがいてと、日本ではありえない贅沢な暮らしでした。でも、中学2年で日本に帰ってからは大変な思いをしました。大阪の大阪城の近くの中学に入り、私はみんなの名前がわからないから、声を掛ける時に「ねえ、君」って言ったのね。

伊東 それは大阪ではNGやわ(笑)。

日浦 「君い? なんや、こいつ」と、完全に浮いてしまいました。英語ができて国語の教科書は標準語のイントネーションで読むから目立つわけです。放課後に「こいつ生意気や」と、ぐるっと取り囲まれたこともありました。日本人学校の生徒は、みんないい子ばかりだったので、帰国してからのギャップがすごかったです。

——みなさん香港時代はもちろん、その他にもさまざまな経験があって今に至っていますね。香港時代の思い出をもう少しお聞かせください。

岡田 日本人学校の校歌に「青い海、白い波」「真澄の空」とあるように、香港は真っ青な海と空というイメージが強いですね。鳥々も自然いっぱいであるところが住んでいたという印象です。

服部 一方で、市場に行くと汚い独特の臭いがする。生きた鶏がそのまま売られていて、ほとんど動物園状態。もちろん貧富の差も大きい。それらも香港の実像ですね。

日浦 私はイギリスのロイヤルパレエの香港校に通い、本場イギリスと同じ紺色のレオタードに真っ白なタイツ姿で練習しました。生徒は白人の子もいましたが、多くは現地のチャイニーズでした。あと、街中の看板で「熱狗」はホットドック、「可口可樂」はコカコーラなど、漢字を見て「あれは何?」って思いながら歩くのはおもしろかったですね。

小倉 私はガールスカウトに入っていました。キャンプに行ったりして楽しかったです。ケネディ・ロードの一番下にあったイギリスのメソジスト系の教会が運営していたのですが、教会に通っていて母の勧めで入りました。いろいろな国の人々と触れ合う大切さを学びました。また、日浦さんと同じフラットに住んでいたため、一緒に家庭教師から英語を教えてもらっていましたね。

日浦 先生はスコットランドの人で、父は「お嬢さんの英語はスコットランド訛りがあるね」と指摘されたことがあると言っていました(笑)。

服部 私も香港大学の学生から家で英語を習っていましたが、小さいころから英語に触れたことで、抵抗感はなくなりました。当時は、イギリスの植民地だったことも大きいですね。帰国後も、アヘン戦争など歴史について興味を持ちましたし、何より世界は日本だけじゃないという感覚が身についたと思います。実は、ジャカルタに赴任して3カ月目に、雨の高速道路で運転手がスリップして、車が何回転もして盛り土の下に落ちる事故に遭いました。幸い大きな怪我はなかったのですが、こういう時でも落ち着いて行動できたのは、小さいころの海外経験で、何か不測のことが起きて大丈夫という自信があったからのように思います。

——香港といえばグルメですが、皆さんの思い出について教えてください。

岡田 何といってもコーズウェイベイの松竹樓ですね。海老とグリーンピースの炒めにフワフワとした卵の白身をままとせたものが、抜群においしかったです。あの料理を食べたくて、他にもいろいろ探したけど同じものがないんですね。松竹樓は火鍋や炸醬麵もおいしかったです。

小倉 私も松竹樓かな。家族でよく行きました。最初に出てくる茹でたピーナッツがよかった。前菜のクラゲが分厚くて、日本から来た人に驚かれました。特に酢豚や焼餃子が好きでした。

伊東 松竹樓はもうなくなっちゃったんですね。

岡田 あとフーバーシアターの中にあったレストランのメニュー番号44番が大好きでした。鶏肉と豆鼓の炒めものです。

伊東 今でもメニューの番号を覚えているのはすごい！

小倉 飲茶はもちろん大好きで、マキシムやシティーホールにはよく行きましたね。

服部 三六九という上海料理店が父のお気に入り度々行きました。あと、アマさんの息子が時々アヒルの塩漬けを持って来てくれて、これが絶品なんです。飲茶では鶏の足やハトも好きでした。

日浦 私は、ペニンシュラホテルの2階にあったバイキングに時々連れていってもらったことが思い出として残っています。ホテルの人は、こちらが子供でもちゃんと1人のレディーとして扱ってくれるし、素敵な洋服を着せてもらえることがうれしかった。

小倉 ペニンシュラは、チョコレート売場がよかった。「どれがいい？」って試食させてくれるんです。すごくおいしかったし、あの優雅な雰囲気が忘れられませんね。

岡田 九龍側のスターフェリーとペニンシュラホテルの間にあった喫茶店のレモンクリームたっぷりのクレープ、タワーコート隣のサンニングハウスのオニオンスープ

も私の大好物でした。

伊東 私たちの学年はずっと1クラスでしたが、4年生の時だけ人数が多くて2クラスに分かれました。今回の出席者は私も含めてみな4年1組で、岡田さん、小倉さん、服部さんと私の4人は、2016年の香港日本人学校創立50周年の記念式典に参加して、その後に思い出の地を散策しましたよね。

岡田 昔の友達とまた一緒に香港に行けるなんて、本当に素敵な思い出になりました。

小倉 気分は小学生に戻って、なんだか不思議な旅でしたね。

服部 50年前に住んでいた建物が残っていて、それが印象的でした。

——最後にみなさんから香港に関して一言ずつお願いします。

小倉 初めて行った外国が香港で、こうやって何年経ってもお話しできる生涯の良いお友達に出会えたのも香港で、私の心の中の本当に忘れられない1ページです。

岡田 香港にいてよかったことは、何よりみなさんに出会ったことです。あれから50年以上経っているのに、会えばすぐに昔に戻れる。それが私の人生の宝物です。

服部 私もみなさんと知り合えたことが何よりもうれしいし、家がロビンソン・ロードだったので、絵葉書にある景色と同じ角度で「百万ドルの夜景」を毎晩見られたことでしょうか。あの美しい景色で、百万ドル×3年分の「心の貯金」ができました。

日浦 幼少期に香港で一緒だったことで、固い信頼感で一生涯つながっていける友達を持てたことに感謝です。私は現在アメリカ在住で、いずれアメリカ国籍を取りますが、遠くにいても心から香港のことを思うし、こういう気持ちを育ててくれた経験は本当に貴重だと思っています。

伊東 本日はお忙しい中、ありがとうございます。今回は私も平野さんも同級生メンバーをお迎えできて、楽しいひと時でした。いずれまた皆で香港に行きましょう。



ビクトリアピークへの遠足集合写真（1972年5月）

業界リーダーらが一堂に会す 秋の国際イベントも大盛況！

香港貿易發展局 コーポレート・コミュニケーション・エグゼクティブ 村瀬 絵美

未曾有のパンデミック下で、「物流」と「健康」は私達の生活において、より高い関心を集める分野となっています。昨秋、弊局はこれらに焦点を当てた大規模イベントを開催して参りました。リアルな展示会を本格再開することが難しい状況下、弊局の活動も、ハイブリッド形式のサミットやビジネスセミナー、国際会議の開催が主体になっています。

◆国際物流総合展2021

2021年10月、弊局は東京ビッグサイトで開催された「国際物流総合展2021」にブース出展しました。弊局ブースは多くの物流業界の皆様で賑わいをみせ、香港を中心とする中国・アジア地域への関心の高さが窺われました。オンサイトセミナーには、キャセイパシフィック航空日本・韓国地区貨物本部の上羽本部長にご登壇いただき、同社の航空貨物の取扱動向について詳しくご説明いただきました。さらに弊局東京事務所の伊東所長からは、香港国際空港の昨年の国際貨物取扱量が引き続き世界一位の座にあること、越境ECや医薬品などの需要拡大に呼応して、同空港の第3滑走路計画が進行中であることが紹介されました。

◆第11回アジア物流・海運・空運会議 (ALMAC)

同年11月2～3日、「第11回アジア物流・海運・空運会議 (ALMAC)」が、ハイブリッド形式で初開催され、アジア各地から参加した空と海の物流団体・企業のリーダーらが、活発な議論を展開しました。その中でクローズアップされたのは、変貌を遂げる物流業界の中で、国際物流センターとしての香港の役割や、輸送業や業務効率化、需要の急増による物流業界が抱える課題やデジタル改革です。初日のセッション「海事分科会：持続可能な未来へ」ではサステナビリティをテーマに、海運を実現するための障壁や代替燃料の最新の開発状況など、2050年カーボンニュートラル実現に向けたロードマップについて、プレゼンテーションやディスカッションが行われました。日本を代表する企業として、商船三井専務執行役員の松坂顕太氏に「ネット・ゼロ」、「温室効果ガス排出の抑制」の達成へ向けた様々な取り組みや、脱炭素化に向けた社会全体での取り組みについてお話いただきました。

2日目のセッション「InnoTalks：世界を変えるテクノロジー」では、日本初発のドローンの有人飛行「空飛ぶクルマ」の開発に成功したSkyDrive代表取締役CEO福澤知浩氏が、かつてはSF映画や空想の世界の産物だった「空飛ぶクルマ」の技術開発状況や、実用化に向けての取り組みについて熱く語りました。2025年

の大阪・関西万博では、「空飛ぶクルマ」が万博会場内の移動手段として運行活用することが計画されており、人々が自由に空を移動する世界がもうすぐそこまできていることを、多くの来場者が実感しました。

◆第1回アジア・グローバルヘルス・サミット (ASGH)

現在の社会がパンデミックに翻弄される中、「健康」は私達の生活にとって最も重要なトピックの1つとなっています。11月24日にハイブリッド開催された「第1回アジア・グローバルヘルス・サミット (ASGH)」には、オンラインを通じ約60カ国と地域から延べ1万1200人以上の視聴者の皆様にご参加いただきました。世界の業界リーダーらが、香港のヘルスケア産業の強みと、香港が提供するビジネスプラットフォームについて紹介し、ヘルスケアにかかる金融、テクノロジーの領域について、科学的研究開発や投資機会に関する最新情報を共有しました。政策対話セッションでは、司会役のマーガレット・チャン氏（清華大学万科公衆衛生保健学部長、WHO前事務局長）が、「パンデミックを終わらせ、私たちの生活を正常に戻すための最大の希望は、ワクチンの接種率を高めることです」と力説、同セッションにはWHO西太平洋地域事務局長の葛西健氏も登壇されています。「治療から予防へ：栄養・生活習慣の改善促進と健康長寿」のセッションには、国連人口基金人口高齢化アドバイザーとして活躍されている森臨太郎医師にもご登壇いただきました。香港特別行政区政府の林鄭月娥行政長官は、今後香港は、「ライフサイエンス」に力を注ぎ、アジアのハブ、中国への玄関口である機能を生かして、さらなるヘルスケア発展を目指していくと述べています。香港貿易發展局では、引き続き皆様と香港とをつなぐビジネス・サポート役に専心したいと考えております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします！



「アジア・グローバルヘルス・サミット」会場風景



日本香港協会 全国連合会 事務局

「第22回香港フォーラム」 「第10回全国連合会総会」開催報告

◆第22回香港フォーラム（2021年11月30日～12月1日）

日本香港協会が所属する、世界35カ国／地域に跨る46の香港ビジネス協会から構成される香港ビジネス協会世界連盟（Federation of Hong Kong Business Associations Worldwide）の全メンバーが一堂に会する年に1度の世界大会・国際会議である「香港フォーラム」は、例年香港にてリアル開催されておりましたが、新型コロナウイルスの影響を受け、今回も2度目のオンライン開催となりました。

2日間の主要プログラムにつきましては、世界各地に散らばるアソシエーション・協会メンバーに数多くご参加いただけるよう、ビデオの再上映等を含め時差を考慮した異なる時間帯（朝夕2回）での参加も可能でした。最終的に、全世界から、会員・非会員合わせて800名以上の方々にご登録いただきました。日本からは、会員約80名、非会員74名、総勢150余名の皆様に登録いただきましたが、これは例年どおり、国別では世界No.1の数となりました。



香港フォーラムプログラムハイライト

初日のオープニング・セッションでは、香港ビジネス協会世界連盟デニス・チュー会長の開会宣言、香港貿易発展局マーガレット・フォン総裁による歓迎挨拶に続き、香港特別行政区政府ポール・チャン財政長官による香港の最新情報に関する基調講演がありました。その後のメイン・セッションでは「革新的で持続可能な新たなビジネスのチャンスを掴む」と題し、新型コロナウイルスの蔓延がもたらした地球規模での経済全体に対する脅威や、産業別の変化、同時に、ポスト・パンデミック時代に生まれた新たなビジネスで成功を掴むための鍵となる「革新性と持続可能性」がテーマとして取り上げられました。

2日目の朝には、主に北米会員向けに初日プログラムを再上映、午後にはFederation常任委員会（Office Holder）の選挙結果発表、メイン・セッションとして「中国の双循環戦略と大湾区（GBA）発展計画」と題し、GBAにおける最新の発展状況と地域がもつ潜在力とイ

ノベーションとテクノロジーを通じた新たな事業機会について、それぞれのパネリストが自らの経験を踏まえて情報を共有しました。

2日目最後にはハイライトとなる「ヤング・エグゼクティブ・プログラム」が開催され「ヘルス・テック・イノベーションとウェルネス産業がもたらす新たな事業機会」について、ポスト・パンデミック時代を見据え、今後のビジネスの生き残りや成長に即した次世代ノーマルの探索に尽力する香港の若手起業家が登壇しました。関西日本香港協会と宮城日本香港協会からは、多くの若手会員や学生がオンライン参加し、香港の若手パネリストの話に熱心に耳を傾けました。

◆第10回日本香港協会全国連合会総会（2021年11月30日）

例年香港フォーラムの前日に、香港にて開催される全国連合会の総会は、本年もフォーラム開始前の時間帯を利用して、オンライン形式で開催されました。議長を務めた佐藤征洋全国連合会会長（東京協会会長）、大島維久子監事（東京協会理事）をはじめ、全国各地10協会の代表者、全国連合会事務局長を務めるベンジャミン・ヤウ香港貿易発展局日本首席代表が出席し、無事に全ての議事を終えることができました。また、例年ですと、香港フォーラム参加者の皆様にご出席いただく前夜祭（全国交流会）におきまして、在香港日本国総領事館の大使・総領事にご挨拶をいただいておりますが、今年もオンライン開催となりましたため、総会終了後に、在香港日本国総領事館岡田健一大使・総領事をお招きし、香港の最新状況について、ご講演いただきました。僅か20分という短い時間でしたが、事前に会員から募っていた質問に対するご回答についてもおり込む形で丁寧にご説明いただき、大変有意義なセッションとなりました。改めまして岡田大使・総領事に対しまして、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

最後になりますが、連合会事務局一同、次回こそは、香港現地にて香港フォーラムにご参加いただく皆様と再会できることを心待ちにしております。



日本香港協会全国連合会第10回総会と在香港日本国総領事館 岡田健一大使・総領事のご講演（Zoom会議）



NPO法人日本香港協会 特別顧問 藤澤 慶彦

第16期CMMS華人経営研究講座は オンラインで開催中です

昨年10月7日から今年3月17日まで全てオンラインで開催中です。今回はオンライン化によって大幅に受講料を下げたせいか目標50人に対して66人の応募をいただき、受講生の職業も上場企業の中堅幹部を中心に中小企業の経営者、弁護士、定年退職者や一部学生も含まれて多岐に亘っています。地域も東京を中心に九州、関西など全国に広がっており、さらには香港・上海にも及んでいます。各地の香港協会からも九州、関西、新潟から合計14人の受講者が登録されております。厚く御礼申し上げます。

講義は前半は理論編で国情・儒教・戦術と華人ネットワークに分かれて毎回熱のこもった講義が続き、チャットを通じた質問も活発です。特に面子・関係・人情といった中国固有の社会通念の講義や、天思想・公私の概念や儒教の解釈の日中の違いなど受講生にとっては新鮮であり、孫子・韓非子もビジネスを展開する上で参考になっていると思われます。今年1月から実践編を講義中で、中国経済分析、中国経済の台頭、中国進出など各分野で活躍されている経営者や教授にお話いただきます。さらには発展する大湾区、一帯一路の行方、デジタル通貨の普及や現在ホットな香港・台湾を巡る国際法上の課

題の講義に繋がってゆきます。中華人民共和国ができて70年経過して、中国は世界第2の経済・軍事大国になり、その影響も世界に及ぶようになりましたが、中国社会は変わっても中国人は変わりません。したたかです。決して悪い意味ばかりではなく、中国の国情からは生きるために当然だと思います。日本のビジネスパーソンにこの辺の認識を持っていただいて、競争と共存によってウィンウィンの関係を築く一助となることを願っています。今後ともCMMSに対するご理解とご支援をお願い申し上げます。



二松学舎大学牧角教授による「中国思想（儒教）」の講義

文化交流委員会 ジャッキー鶴丸

広東語&香港家庭料理講座 受講生募集

2022年に新しく広東語を交えながら香港の家庭料理を学ぶ講座を開催します。当協会が運営する広東語教室は歴史が古く、香港の食文化に深い興味をお持ちの受講生さんが多いのも特長です。今回当協会の法人会員である株式会社ヨネチクの協力を得て、香港家庭料理を広東語で学ぶ講座を初めて企画しました。

香港旅行で買い求めた調味料や食材などの使い方が分からない、レシピが読めないなど困った経験のある人、香港料理を自分で作ってみたい人などにおすすめの講座です。

講座は当教室の人気講師のケリー先生が担当します。料理は香港家庭料理の代表的な「豉汁蒸排骨（スペアリブの豆豉蒸し）」と「蒸水蛋（蒸し卵）」「山薬排骨湯（スペアリブ薬膳スープ）」の3品。材料は日本でも手に入るものを使用し、本格的な道具を使わずに家庭にあるもので作る方法を、動画を交えてレッスンします。

また、香港に行ったときに手にいれておきたい道具なども紹介。ケリー先生の自宅キッチンからの中継ライブで、より本格的に楽しめます。説明は日本語と広東語で

します。広東語初心者あるいは学習未経験者でも安心して参加することができます。オンライン講座なので、全国どこからでも受講が可能です。

さらに今回の講座は、香港料理に欠かせない食材・調味料（内容は未定）のお土産付き。アンケートに回答してくださった方には、作り方や材料など広東語と日本語で書かれたレシピ（PDF）をプレゼントします。

開講は2月・3月を予定。募集は当協会ホームページやメルマガ、Facebook上で発表致しますので、ご注目ください。香港になかなか行けない時期に、香港を味わえる講座ですので、ぜひ多くの方のご参加をお願いします。





関西日本香港協会 理事 山本 辰久

香港にとどまらず、アジア全域に 広がるHKBAの「人のつながり」

去る7月の日曜夕刻、突然マレーシアの知人からWhatsApp（通話アプリ）に連絡が入った。「ハロー、ミスター・ヤマモト!!! 某新興国産の良い石材が大量に入るのだが、買わないかい？」いつもながら唐突で多彩なビジネスのお話。「いかにも華人」と微笑みつつ、厳しい感染状況の下、週末も国境を超えてビジネス開拓に励む姿に感心した。性能基準の関係で日本販売は大企業でも難しく、丁重にお断りしたが、海外との交流が途絶えがちな時にも「国を超えて人とつながっている」と実感する嬉しい体験になった。ちなみに彼とは、HKBA (Hong Kong Business Association) マレーシアの別の知人から、香港のHKTDC主催展示会でご紹介頂いた仲である。

この2年弱の間、日本と香港・アジア間のビジネスの橋渡し支援をする立場としても、正念場が続いている。このような時にこそ、この件や後述するアジア地域で繋がっているHKBAメンバーとの交流が大きな励みになっている。

シンガポール協会に関しては、世界連盟 (Federation of HKBA) 会長 (本稿執筆時点) を擁し、アジア全体を引っ張る心強い存在だ。ホテル経営者一族の会長はじめ、土地柄かIT企業関係者も多く、欠かせないつながりで、現在もある案件で情報交換中の方がいる。

マレーシアのメンバーとは、本当に気安いお付き合いを頂いている。特に親しい幹部からはコロナ禍中「一緒に若手起業家向けにオンライン研修しないか」とお声かけ頂いた (生憎実現には至っていないが)。別の方のFacebook投稿からは、海外に行けない「もどかしさ」が私だけではないと伝わり、何だか心が温まる。彼には、先の日本入国時隔離緩和の速報を伝え、「2022年にぜひ大阪で会おう!」とメッセージ交換したところだ。

ベトナムも発展の余地多き若い国でもあり、今後お付



湾仔のルーフトップバーで (左端が筆者)

き合いを深めていきたい。若手層も含む幅広いメンバーが居られ、昨年以降ウェビナーにも何回か参加させて頂いた。その他、インドネシア、フィリピン、タイ、韓国など各国でも華人としての立ち位置を上手に発揮しつつ、それぞれ活躍されている。現地日本料理店での沢山の食事写真を投稿してくれたり、思い出投稿の多くが日本観光のものだったり。そんな状況を、Facebook、Linkedin、WhatsAppやWeChat経由でやり取りする過程で感じたのが、厳しい状況を経て、真に共感し合う仲間同士ではつながりがむしろ強化される、ということである。

このような体験を通して、アジア各地域の信頼できる華人たちとの「人的つながりのハブ」としての香港の魅力、HKBAの魅力、改めて大いに感じさせられた期間であった。香港は香港だけで完結するのではなく、アジア全体につながりを広げているのだ。

また、華人である彼らも、グローバルな政治情勢の下、複雑なジレンマを抱えている。そのなかで巧みに立ち回って、時代を乗り越えようとする姿は、日本人としても見習うべき点が多い。

重ねてこの1年半は、アジアと日本の近さを大いに実感した期間でもあった。法規制が無くとも自主的にマスクをするアジア人同士を、身近に感じた方も多いと思う。我々日本も、そのアジアの中に居ることを決して忘れたくない。総じて言えば、HKBAのアジアメンバーは、「日本」という一つのまとまりに対し、敬意を持って接して下さっている。そうした点を踏まえ、日本人として今後いかに関わりを持つべきなのか？

日本香港協会においても、各地域の活動がまず基本ではあるものの、それだけでは外部に「日本」の姿が見えづらい。個人的には香港フォーラムやアジアフォーラムの際など、アジアの仲間と交流するカジュアルな場を得ているが、日本という単位でアジアと接する意識も高めることが、今後の協会活動において大変重要と感じているこの頃である。



銅鑼灣の火鍋店で (右端が筆者)



中京日本香港協会 会長 小山 圭子

香港街市雑記帳 〈1〉

“日本人ですか？”振り返ると男性給仕が少し遠慮がちに声をかけてきた。“Yes, Japanese”と返事をした私。1999年12月初旬、初訪港である。

名古屋～香港への観光ツアー初日の午後、2時間ほどのフリータイムでの出来事。九龍半島側のMTR（地下鉄）佐敦（ジョーダン）駅に近い逸東酒店（イトンホテル）に宿泊。街の散策ついでに日本円を香港ドルに両替しに銀行へ。さながら現地の住人のようで楽しい。さすがアジア第一の都市香港、インド・パキスタン・フィリピン・欧米系の人々でごった返していた。両替のレートは1HK\$ = 15円弱。英国式なのかスマートに両替が済んだ。12月でも暖かくシャツ1枚で大丈夫。街市風景はまずお茶をと油麻地（ヤウマーテイ）方向にネイザンロード沿いを北に歩き、中国風のオープンカフェでタピオカミルクティを一口飲んだ時である。先ほどの彼から英語での意外な質問が出た。

「日本人女性客が良く話している『だけど』という日本語の意味は何ですか？」の問いに、私はバッグから紙とペンを出して“but, about, and, then, because, that, … etc.”「大して重要な意味はない」と言い添えると彼は拍子抜けをしたような、けれど安堵の表情で、疑問が解決した事に礼を言った。コマーシャルズ溢れる初めての香港人との会話に彼らの熱意・勤勉さを見た。このカフェに日本人観光客が香港文化を体感しに立ち寄るのだろう。レトロな木製の背の高い丸座面の椅子に、細工のある円卓はまるで映画のワンシーンのようだ。名古屋へのタピオカミルクティ上陸はこの数年後、台湾人の李さんが大須観音で自慢の鶏唐揚げの店を開店してからの事である。

2日目の朝は名物の鮑粥。有名店だけあって美味しい。お腹がほっこり温まり一路バスは来年の開運を願うべく黄大仙廟（ウォンタイシン）へ。平日なのに多くの香港

人が参拝している。私は又香港へ来られます様にと願掛け。バスはネイザンロードを南に下り途中海底道路を通過し香港島へ進む。南側の海岸線沿いの赤柱（スタンレー）の浜でフリータイム。開運のための印鑑を1つ作った（後年、上環の文華里でラピスラズリーの石で再び開運印鑑を誂えた）。香港を旅先に選んだ理由は“100万ドルの夜景”のキャッチフレーズに魅かれ、また教師をしている友が香港土産にシルクのパジャマをプレゼントしてくれたのがきっかけだ。絹製品は美肌・身体健康促進の効用があり且つ美しい。キラキラの夜景観光・豊かな食文化・健康・風水開運がKeyword、無問題モーマンタイ。

この時の日本語ツアーガイドの黄先生には2日目の朝、名刺交換をしていただいた。彼の話す美しい日本語はバスの中の説明も心地良い。当時名刺交換は海外では有りや無しやといわれていたが、当然ながら名刺はマストアイテムだと思っている。同じ漢字を使う民族として表意文字の有用性は大きい。中環（セントラル）～山頂（ビクトリアピーク）までの途中山道脇で土産用の油絵を購入—香港帆船が湾内を夕日の中を航行—横幅1.2mの長寸でクルクル丸めて持って帰った。黄色い暖色系色調の明度の高い絵で部屋が明るい。東向きの壁に掛ける事に。車中黄先生の話は意味深であった。「皆さん元気に日本へ帰国するために屋根のない店での飲食はやめましょね」私達は爆笑である。当然屋台飲食はリスクだ。続けて「皆さんは特別に幸運です。あと数日経つとマカオが中国に返還されます。今、中国から多くの警官が香港に来ています。—え？だから何？—ですから今香港にはマフィアが居ません。皆外国に出かけています（笑）」とスピーチ。この渾身のブラックジョークには誰も笑えなかった。映画だけじゃなくてマフィアって本当にいるの？とシーンとした。この黄先生との出会いは、数年後に私の香港のビジネスに少なからず関わってくる事に。やはり香港は面白いと今更ながらに感じ入る。

翌2000年、世界はパソコンの2000年問題に揺れ、企業人は年末を会社で年越しという状況も生まれ、しかし正月は無事にやってきた。中京日本香港協会の春節セミナー&パーティーが名古屋商工会議所で開催され参加した。参会者の広告代理店・万国社の早川重役に触発され協会へ入会した。独身の頃は名古屋国際ホテル企画宣伝課のデザイナーとして働いていたが、結婚し子育てしながら激務な職場で働くのは断念して退職した。自営業デザイナーとして独立後数年の頃である。協会入会後はデザイナーの会員は希少価値からか当時の（故）小森副会長に理事に推された。以後20年余りになる。昨夏2021年7月から中京日本香港協会の会長を受任。中京日本香港協会の活動域を「昇龍道」にまで拡張の夢を持ち、ビジネス・日港文化交流の活性化に奔走中。多謝。



多くの香港人が参拝する黄大仙廟（写真：広報委員会）



福岡県香港事務所長 波多野 直美

香港ブックフェア出展と訪日旅行に係るアンケート結果について

1. 香港ブックフェア

昨年7月14日～21日の7日間、香港コンベンション&エキシビジョンセンターで香港ブックフェア2021が開催された。ブックフェアは香港最大の一般消費者向け書籍見本市であり、例年100万人以上が訪れる、香港でも来場者の多い展示会の一つである。前回は新型コロナウイルスの影響で中止に追い込まれたが、2年ぶりの開催となる今回は、延べ83万人もの来場者で賑わった。本事務所も日本政府観光局をはじめとした日本関係者のブースにより形成されるジャパンパビリオン内にブース出展し、福岡県内観光地のプロモーションを行うとともに、来場者へのコロナ後の訪日旅行に関するアンケートを実施した。



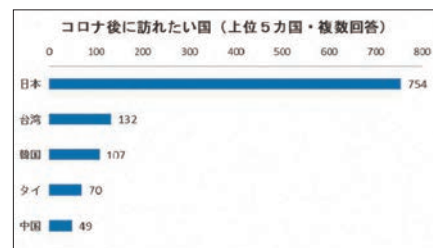
福岡県事務所ブース

2. ジャパンパビリオン内での福岡県PR

(1)ブースにおける福岡県観光PR 今回のジャパンパビリオンでは自治体に対して15㎡ほどの広いブースが提供されたため、ブースの壁面は一面に県内各地の観光地の写真を配置し、洗練されたデザインで他のブースとの差別化を図った。ブース内では本県の観光パンフレットを中心に配布したが、山口県や佐賀県のパンフレットも並べることで広域的な連携を意識した。また、観光プロモーション動画も放映したが、今回はブックフェアということもあってか、動画よりもパンフレットを見て足を止める来場者が多かった。さらに、訪日旅行に関するアンケート回答者や事務所のフェイスブック（以下「FB」）をフォローしてくれた人にノベルティを配布した結果、FBフォロワーを大幅に増やすことができ、また、アンケートは800人以上の来場者から回答を得ることができた。

(2)アンケート結果 — コロナ後に訪れたい国・第1位は「日本」— 香港人は訪日旅行リピーターが多いことは他のアンケート調査でも既に知られているが、今回

のアンケートでも、訪日回数は2～5回が34%と最も多く、次いで、6～10回が20%と続くが、16回以上と答えた人の割合



〔表〕アンケート「コロナ後に訪れたい国」

が15%という結果となった。また、「コロナ後に訪れたい国は日本」と答えた人は754名で、回答者全体の約90%を占めた。これは、当事務所のブースがジャパンパビリオン内にあり、回答者がそもそも日本に関心の高い層であったことを差し引いても他を圧倒する結果となった。実際にブースを訪れた人からは口々に「早く日本に行きたい」「いつになったら日本に行けるのか」といった声が数多く聞かれた。また、パンフレットに関しても、他で紹介されていないようなコンテンツを含み、かつ情報量が多いパンフレットが圧倒的に人気であったことから、彼らがまだ訪れたことのない場所や体験したことのないコンテンツを求めている様子がうかがえた。

3. アンケートの分析と今後の誘客活動

今回のアンケート結果から改めて浮き彫りになったのは、香港人の訪日回数の多さ、そして日本への旅行を待ち望む声である。これまで何度も日本に行ったことがあるにもかかわらず、今後も何度も日本に旅行したいと考えている香港人が非常に多いということがブースで接客していても実感できた。一般に美しい景色や特別な体験を求めて日本を訪れたがっている香港人は非常に多く、また、彼らにとって日本は「質の高いものを安く購入できる」魅力的な場所でもあると言われている。今回のアンケート結果からもコロナ後には多くの香港人が日本を訪れることが予想されるが、福岡県が彼らにとって魅力的な場所であることをFBやインスタグラムといったSNS等、効果的な手法でPRすることで、多くの香港人が何度も訪れる場所になるとと思われる。



大勢の人で賑わうジャパンパビリオン



山形日本香港協会 会長 大沼 みずほ

人的ネットワークの構築こそ 今後の活動への糧

新型コロナウイルスの流行により世界中の人流は滞り、私たち山形日本香港協会が香港を最後に訪問して早2年が経ちました。多くの会員の皆様にとっても香港を訪問できないことで、様々な影響が出ていることでしょう。一方で、オンラインでの交流ということが、以前より活発に行われ、一昨年、昨年と香港フォーラムがオンライン形式での開催となったことは、時代の変化を感じます。

香港を訪問できない、企業や会員向けのセミナーが開催できないなど協会の活動に制限はありますが、会長としてウィズコロナ時代、コロナ後の時代を見据えた際、いま何をすべきか。そのことを考え、できる範囲での活動を続けてまいりました。それは、こうした時期だからこそ、普段はなかなか面談の叶わない方々とお会いし、意見交換することでした。まさに、人とのネットワークの構築こそ、今後の活動の糧になるという思いからです。

昨年の4月には、香港経済貿易代表部のジョイス・ホー首席代表、7月には香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ首席代表、9月には、新旧の在港日本総領事館大使にお会いし、現在の香港情勢、今後の日本と香港の関係について、意見交換をしました。ベンジャミン・ヤウ首席代表との面談は、年度内に山形を訪問することで計画を進められているため、その訪問を以てご報告したいと思います。

◆香港経済貿易代表部首席代表

2021年4月15日、香港経済貿易代表部のジョイス・ホー首席代表（当時）と初めて面会をしました。女性の首席代表は3代続けてであり、香港が、女性管理職がすでに40%を占めている地域であることを改めて思い知り、日本ははまだ、ジェンダーギャップ指数121位という先進国の中で最も底辺にいることを何とか変えていかなければならないという強い思いになりました。全国に11ある日本香港協会の中で女性が会長を務めるのは、山形を含め3協会で全体の27%、もう一息です。

香港の一国二制度や経済問題、米中関係、台湾との関



香港経済貿易代表部ホー首席代表（左）、ウー代表（右）、筆者（中央）

係などにつき意見交換をしました。ホー氏からは、「コロナ禍ということもあり、デモや抗議活動が下火になり、社会は安定を取り戻しているが、経済交流が活発でないことが残念だ。日本に行きたい人たちを中心に日本のものが多く売れている。旅行に行った気分になれるからだ」とのお話がありました。折しも、その日の山形新聞には、東京五輪の香港フェンシングチームのホストタウンとなった米沢市の香港選手との交流計画についての記事が掲載されており、コロナが収まったら、ぜひ山形、米沢へ訪問していただきたいとお伝えしました。親日の香港の人たちとの経済、文化をはじめとする交流を今後しっかりと再開できるように尽力して参りたいと思います。

◆新旧の在港日本総領事館大使

2021年9月7日、香港から戻り、新パキスタン大使となられた和田充広前大使と新任として香港総領事館へ赴任される岡田健一新大使と面談しました。



現・在港日本国総領事館岡田大使（左）、前・在港日本国総領事館和田大使（右）、筆者（中央）

和田前大使は、2019年の香港フォーラムの際、香港でお会いし、これまでも日本企業の後押しなど様々な場面で協力をしてくださいました。また、岡田新大使は、父（故大沼保昭・東大教授）の教え子で、私が小さい頃から実家によく来られていた方ですので、新しい赴任地が香港であることをとても嬉しく思いました。チャイナスクールとして、中国や米国、韓国、台湾などでの赴任経験が多いことから情報の集まる香港でご活躍されることをご期待申し上げたいと思います。6中総会が11月に開かれ、習近平総書記の今後の体制を見ていく上で引き続き、香港は情報を得るための重要な拠点であり、それに先立つ人事であったと思います。

それにしても、和田前大使とその前の大使と2回続けて、香港の次はパキスタン大使という人事を見てみますと、日本政府が中国とアフガニスタンの関係の強化に目を光らせていることの表れだと感じました。遠いアフガニスタンの出来事も、日中関係の枠組みで考えると私事として考えることができます。

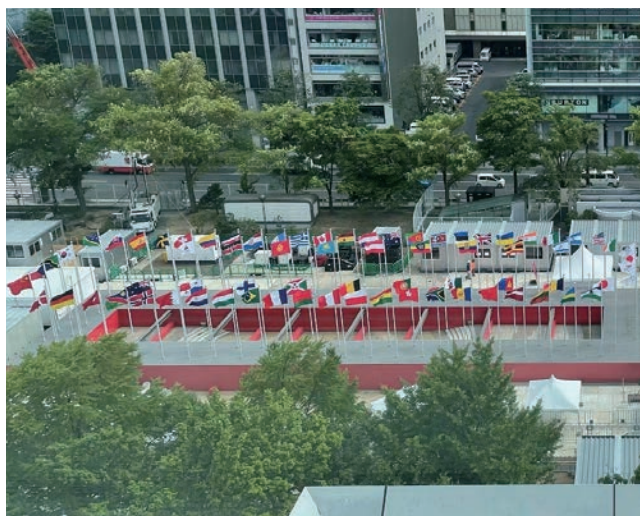
これからも積極的に山形と香港を繋ぐために、多くの人とのネットワークを構築し、今後の活動に役立てていきたいと思っています。



北海道日本香港協会 事務局

東京2020オリンピック競技大会札幌開催
における札幌市の活動について

当協会の副会長である札幌市の町田隆敏副市長には、日頃から北海道と香港の交流促進にご尽力をいただいておりますが、その札幌市で東京オリンピックのマラソンと競歩が開催されたことは皆様のご記憶に新しいことと存じます。札幌の国旗掲揚台では、鮮やかな赤色の香港特別行政区旗が札幌の澄んだ青空にはためいていました。



国旗掲揚台

東京2020オリンピックは、7月23日～8月8日の17日間で33競技339種目が、42の競技会場にて行われ、東京2020パラリンピックは8月25日～9月5日の12日間で22競技540種目が、21の競技会場にて行われました。

札幌市内では、7月21日～28日の間でサッカー10試合（男子6試合、女子4試合）が、8月5日～8日の間で男女20km競歩、男子50km競歩、男女マラソンの5競技が実施されました。

マラソンコースは長年の開催実績を持つ北海道マラソンをベースとして、さっぽろテレビ塔をバックに大通公園をスタート後、すすきの～中島公園～豊平川～創成側通～北海道大学～北海道庁旧本庁舎（赤レンガ庁舎）と北海道・札幌の発展の歴史を巡り、その魅力を感じることができるコースとなっています。世界陸連からも「特に北海道大学を走り抜けるコースは美しく、木陰が暑さ対策として有効」との高い評価を受けています。コース沿道のスタート、フィニッシュ、中間点、5kmポイントごとには距離表示銘板を設置しており、大会後もマラソンツーリズムや記念大会の実施など、オリンピックレガシーとしてこのコースを継続的に活用することにより、街の活性化が期待されます。

札幌市は、開催都市として機運醸成やボランティア

ア事業、海外メディアへの情報発信などに取り組みました。機運醸成の取組として、7月19日～9月5日に市内中心部に都市装飾を実施し、特に大通公園西10丁目に設置したオリンピックシンボルは多くの市民が記念撮影するなど好評を得ました。大会ボランティアであるシティキャストは255名が活動。主にマラソン・競歩競技開催日に市内中心部のインフォメーションブースなどで通行人に対し、交通規制や迂回路案内等の業務を実施しました。また、新型コロナウイルス対策で自由な取材や行動に制限のあった海外メディアをサポートするため、英語版特設サイトを開設し、札幌の情報・写真・動画素材等の提供を行いました。

◆2030年冬季オリンピック・パラリンピック競技大会招致について

札幌市はこれまで、1972年の冬季オリンピックをはじめ、2002年FIFAワールドカップ、2007年ノルディックスキー世界選手権、2017年冬季アジア競技大会、2019年ラグビーワールドカップ、今回の東京2020オリンピック競技大会と数々の大規模スポーツイベントを開催し、スポーツを通じたまちづくりを進めてきました。現在、2030年冬季大会の招致を目指し、大会計画の見直しを行っており、今後市民対話を経ながら、計画を更新していくとのことです。

昨年コロナ禍の影響から海外観光客の行き来ができない状態にあり、残念ながら本年北京で開催される、2022冬季北京オリンピック・パラリンピックへも日本から現地へ赴き応援することはできないことが予想されます。2030年冬季大会が札幌で開催されることとなれば、新型コロナウイルス感染は完全に収束し、香港から多くの観光客や応援者が来られることを祈念しております。





セミナー「宮城仙台と香港を活用したグローバル市場への展開可能性」を開催

過日8月31日（火）仙台市西口のAER21F、TKPガーデンシティ仙台カンファレンスルーム21Fにおいて、当協会と香港貿易発展局の主催、宮城県・仙台市・日本貿易振興機構（ジェトロ）仙台貿易情報センター・宮城県食品輸出促進協議会等との共催、そして仙台商工会議所、香港日本人商工会議所等各機関のご協力のもと、県内事業者向けに、香港をゲートウェイとして活用した海外進出支援を目的としたハイブリッド形式のビジネスセミナー「宮城仙台と香港を活用したグローバル市場への展開可能性」を開催しました。

コロナ禍の非常に難しい状況ではございましたが、感染防止対策を徹底の上、会場には20名を超える方々、そしてオンラインでは130名超の方々にご参加いただきました。

香港貿易発展局首席代表のベンジャミン・ヤウ氏の挨拶で幕を開け、来賓として宮城県経済商工観光部副部長の武内浩行氏、仙台市経済局次長の柳津英敬氏、仙台市産業振興事業団経営支援部長の関憲二郎氏の御三方から挨拶をいただいた後、講演に入りました。



ベンジャミン・ヤウ首席代表ご挨拶

ジェトロ仙台的伊藤亮一所長からは、鶏卵やお米など宮城発の農産物のオンライン商談会による輸出成功事例、イオン香港の久永晋也取締役からは現地店頭状況を変えた現在の香港における日本食の消費動向、特に生卵、鰹節や豆腐、納豆などが人気が高いことなど、そして香港貿易発展局の伊東正裕東京事務所長からは中国の広域経済圏「大湾区」における新たなビジネスの可能性について、それぞれご講演いただきました。

質疑応答の後、最後に当協会食産業ビジネス部会長から御礼のご挨拶を申し上げ、閉会となりました。お忙し



ハイブリッドで接続した会場

いところご参加いただきました皆様、セミナー開催に当たりましてお力添えいただきました皆様に対し、心より感謝申し上げます。引き続きここ宮城県から香港との連携可能性を発信して参りたいと思います。

学生部の活動

2020年3月に発足した学生部は、現在オンラインを中心に毎月の活動を継続しています。9月の活動では、中秋節にちなんで月餅の作り方をオンラインで勉強しました。香港在住の学生部メンバーがビデオで作り方を解説し、日本の参加者が中心となって作り方を学びました。月餅は、香港の定番スタイルの蛋黄（ダンウォン：アヒルの卵の黄身）入りのものを、タロイモ餡・あずきのこし餡で、香港メンバーがそれぞれ手作りしました。ナッツ入りのものは特に「美味しそう！」と日本のメンバーからも好評を博しました。月餅を始めとした「食」も重要な文化交流の一部だと考えます。引き続き、日港の若い世代の文化交流を、ここ宮城から進めて参りたいと思います。



学生部の「月餅」教室



沖縄日本香港協会 事務局

沖縄の「やちむん」の魅力を香港へ

2021年9月18日～11月14日の期間で、移動沖縄陶器市in香港が開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大によりビジネスにも影響が出る中、主催されたteFuud(てふうど)の盛麻衣子氏に香港のマーケットと沖縄のやちむん(焼き物)の可能性について伺いました。



沖縄のパネル掲示した展示会

——まず会社の設立の経緯について教えてください。

2009年から香港に住んで建築関係の会社を運営していましたが、「自分の好きな自治体に納税したい」という気持ちから親友のいる沖縄に移住、2019年に会社を設立しました。香港で生まれ育った子供たちは、英語がメインで、日本語が充分ではありませんでしたが、沖縄の小学校では外国人の子弟の為の日本語教室があることも、沖縄移住を後押ししました。

沖縄でホテルオリジナルの陶器やノベルティを作成している友人から長年、沖縄のやちむんの魅力・良さを教えられ、これを広げたいと思う様になりました。

香港では、IKEAのような低価格帯なものか、ヨーロッパの高級品かしかなく、香港の一般の人が「器を楽しむ」機会が少ないことから、「器使い・器選び」など器の楽しさを香港に届けたいと思い、現在は沖縄のやちむんを扱っています。香港での展開に際し、香港貿易発展局のアドバイスも頂きました。「フラン・フラン」が香港で上場し、多数店舗を展開しているように、日本のインテリアや食器の可能性は高いと思っています。

——今回、香港で沖縄のやちむんを紹介する移動陶器市を開催されました。その様子を教えてください。

昔の素朴な香港が残るシャムスイポーの新しいセレクトショップ「オリオン」の一階の前半分をお借りして販売しましたが、かなり盛況でした。香港在住の日本人の方や沖縄に行ったことがあるという香港人の方に多く来ていただきました。器の製作者の方もインターネット販売を行っているが、実際手に取って選んでいただける販売方法はうれしいとのコメントを頂きました。

——香港での沖縄のやちむんに対する反応はいかがですか。

香港では基本的に白い器が多いため、沖縄のやちむんのさまざまな模様や色使いに「自由な器の世界」を体験して頂いているようで、大変好評でした。

——香港のマーケットの印象など感じる事があればお願いいたします。

今回協力いただいた店舗は、日本の製品を扱っているセレクトショップでしたが、香港には、日本の物やライフスタイルに理解がある人が多くいます。ご存じのように、香港は可分所得が高く「いいもの」「自分が気に入ったもの」にはお金をどんどん使います。また「新しいもの」が好きで、高感度の人が多いことから、発展性があるマーケットであると感じています。

——香港と沖縄ではライフスタイルの違いから、陶器の好みも違うかと思いますが、どのような対応をされていますか。

やはり香港の方が使いやすい中華食器の形の器を提案させていただいています。香港はカフェブームで、沖縄のコーヒーカップも人気があります。ただ、全体に絵柄が入ったお皿や四角い皿はまだ使いこなせないらしく、今一つでした。今後は、お皿に乗せる食べ物や使い方の提案もしていきたいと思っています。

——今後の展開について教えてください。

今月、石垣島にAirbnbを活用した宿泊施設を開業し、観光で来られるお客様にも沖縄の器や小物を実際に触れて頂きたいと思っています。現在海外の観光客は、入国しにくいですが、その代わりに東京在住の外国人の方に、多く利用いただいています。

また、先日カタログ販売のリンベル株式会社の香港向けカタログに商品を載せて頂き、新たな販路の拡大につながることを期待しています。

香港を皮切りにアジアに、更に沖縄のやちむんの魅力を伝えていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。



香港ORIONのスタッフと共に



コロナ禍での活動

2021年11月現在、新潟県内においてもコロナウイルスの第5波が過ぎ、感染者数がかかり落ち着いてきております。コロナウイルスが流行してからのここ2年弱は海外はもちろん、県外との往来も憚られる状況が続いておりましたが、ようやく新潟の警戒ムードが緩和されている印象があります。

私事ではありますが、最後に海外に行ってからちょうど2年が経っています。新潟日本香港協会の事務局として香港に携わる前、1度香港へも一人旅で訪れていましたがそこからもうすぐ3年が経ってしまいます。今でも活気あふれる香港の街が忘れられませんが、コロナ禍で世界が大きく変わっている今、あの香港の風景はどうなっているのか、早くまた訪れて感じたいです。

さて、ご存じの通り、協会の活動においてもコロナ禍で大きく変化しました。香港フォーラムは2年連続オンライン開催となり、新潟日本香港協会の総会においては2020年度は書面総会という初めての開催方法となりました。2021年度通常総会はリアルとオンラインのハイブリッド形式で行うことが出来ましたが、開催直前に新潟県独自のコロナウイルス特別警報が発令され、懇親会は中止となってしまいました。春節セミナーにつきましては2020年2月はコロナウイルス流行前でリアルで開催しており、2021年は他協会との合同のオンラインセミナーとなりました。今回は、コロナ禍の直前に開催した、2020年2月の春節セミナー・パーティーを振り返りたいと思います。



2020年春節セミナー

2020年2月の春節セミナーでは、新潟市内ホテルイタリヤ軒において、第一部をセミナー、第二部を春節パーティーとして開催し、約20名の会員の皆様にお集まりいただきました。春節セミナーにはガレオン・ジャパン株式会社代表取締役雷彩霞様と、香港貿易発展局マーケ



2021年1月新潟市の雪

ティングマネージャー引地洋介様に講師としてお越しいただき、雷様には、「香港マーケットの最新状況と成果を出す商談の秘訣」をテーマに、引地様には「国際ビジネスプラットフォームとしての香港の役割」をテーマとしてご講演いただきました。また、講演後には2019年10月から2020年3月まで季節定期便として新規就航していたキャセイドラゴン航空の新潟-香港線のスケジュール案内も行いました。新潟-香港線は現在は運航を終了しておりますが、コロナウイルス収束後、旅行需要も復活したら、ぜひまた就航してほしいと願っております。セミナー後に第二部として行いました春節パーティーにも、香港貿易発展局、香港経済貿易代表部の方々にもご列席いただき、新潟日本香港協会の会員の方々とご交流いただきました。

最近是这样したイベントから業務上の打ち合わせ等にいたるまでオンラインで行うことが多くなり、海外や日本中とも移動を伴わず繋げるため便利さを感じることも多い一方で、やはり春節セミナー等節目の行事においては実際に顔を合わせて行うことができる機会が大切であると身に染みて感じております。昨年の春節セミナーはオンラインセミナーとして開催いたしましたが、2022年2月の春節セミナーでは、ホテルにてリアルで開催するという方向で進めております。感染対策を万全に行ったうえで、ぜひ多くの方々にご出席いただきたいと思います。

新潟では昨年度は記録的な豪雪となり、例年は積雪量がそれほど多くない新潟市内でも大雪となりました。今年度は過ごしやすい冬であることを願っています。寒くなってまいりましたので、皆様におかれましてもお体ご自愛の上、お過ごしくださいませ。



高知日本香港協会 事務局

新年好！

全国の協会関係者の皆さん、明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が世界を震撼させてから、早くも2年もの月日が経過をいたしました。海外ビジネスへの影響は特に厳しく制限をされており、物流も人流も通常には程遠い状況下にあります。

昨年の飛龍を読み返しますと、1年後の終息の願いがしたためられており、厳しい中にありながらも希望をもって活動をしていたことがうかがえます。ワクチン接種も進み、一定の落ち着きを見せているものの、まだまだ終息の気配は薄く、限られた環境の中で戦っていかねばなりません。



2021年度忘年会開催

高知協会においても、他協会の皆さんと同様に定例会、勉強会、総会等そのほとんどが中止や延長を余儀なくされていますが、ランチミーティングでは情報交換を行い、協会の活動を模索しているところです。そして先般、久しぶりの定例会を行い、掲載してある写真のように12名の参加者で大いに盛り上がりました。本号ではその様子をご報告いたします。

本定例会の会長挨拶では、現状の話があり2年以上も香港に伺っていない状況に加え、活動が制限される中、会員のモチベーションをどう維持していくか等、喫緊の課題について触れられました。

2部では、当協会員の小上茂樹氏（日本旅行高知支店課長）による香港オンラインセミナーを開催。コロナ禍



森本会長から来年に向けての抱負

での香港の対策や、オーシャンパークの新しいアクティビティなどの紹介、オンラインツアーの体験など、旅行会社ならではの盛りだくさんの香港情報を提供いただき、参加者全員が、早く香港行きたい！と心を躍らせていました。なによりもアフターコロナに向け、様々な準備をされている香港の底力に感銘を受けた次第です。

また懇親会中には香港在住人気YouTuberのチャンネルを拝見しながら、香港の魅力を存分に感じる事ができました。その後、同時刻に香港高知県人会の皆さんとWEBで繋がり、香港×高知オンライン飲み会を開催し、近況報告をしながらそれぞれが楽しい時間を過ごさせていただき、良い交流を築くことができました。制限が多い中でありながらも有意義な時間を企画でき、大変嬉しく思います。

最後になりますが、香港貿易發展局大阪事務所からの紹介のもと2年前の高知協会主催セミナーでご講演をいただきました、楊さちこ先生に当協会の相談役にご就任いただきましたことをご報告します。香港の繋がりが深い皆さんはすでにご存知のことと思いますが、楊さちこ先生は現在香港在住で、中医学を中心に美容と健康について熱心に取り組まれており、多くの著書も出版され日本でも数多くのご講演やメディアへの出演などで活躍されています。当協会のご講演をきっかけに会員との親交が深まり、コロナ騒動以前には会員の香港視察研修のりには、勉強会や市内散策、会食など、ご主人のロンさんと共に様々なおもてなしで私たちを迎えていただきました。楊先生には私共の依頼を快くお受けくださり、心から感謝を申し上げます。日常が戻る時期に、良いスタートダッシュが切れるよう今やれるべきことを進め、しっかりと準備をしていきたいと考えております。今後の発展が楽しみです。

本年こそは世界の平穏が訪れますことを祈念いたします。同志の皆さんにとって佳き一年となりますことを併せてお祈りいたします。



小上会員によるオンラインセミナー



香港高知県人会とのWeb交流



飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易發展局内

中京日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易發展局内 (2021年7月1日付で事務局移転)

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2階西
(株)Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オトル内



HOTEL *Alexandra*
歴山酒店

時を忘れてしまうような滞在…



2021年9月、ホテルアレクサンドラはハーバープラザホテルズアンドリゾーツの新しいブランドとして香港島のノースポイントにソフトオープンいたしました。

洗練されたフランスのネオクラシックとコンテンポラリーな要素を贅沢に融合させたエレガントな美しいデザインホテルです。

シャンデリアの輝く宮殿のようなグランドボールルームは、ミーティングイベントやウェディングに最適な素晴らしい会場として人気を集めています。ビュッフェやティータイム、そして各種プロモーションなど、Café Aでは、お客様の思い出に残るひと時のために、心のこもったお料理をご用意してお待ちいたしております。



32 City Garden Road, North Point, Hong Kong (MTR Fortress Hill Station, Exit B)

Tel: 852 3893 2888 Email: enquiry@hotelalexandrahk.com www.hotelalexandrahk.com

東京事務所 - Tel: 03-5413-5780 Email: rep.tokyo@harbour-plaza.com

A member of Harbour Plaza Hotels and Resorts

